



常葉大学の学生10人が約1カ月かけて制作した巨大絵馬が設置された静岡浅間神社

# 2023年 年頭所感

# しずおか平和の風

No.92  
2022年12月25日  
発行  
静岡市  
平和委員会  
静岡市葵区鷹匠  
1-5-8  
TEL 253-1854  
FAX 252-0785  
メール  
peacecity1854@gmail.com  
ホームページ  
https://shizuoka-shi-heiwa-iinkai.jimdofree.com



昨年、世界中で一昨々年来のコロナ禍が継続して続き、日本でも第八波が始まったといわれています。その上、2月24日、ロシアが突如隣国ウクライナに侵攻を開始しました。21世紀になって、国連憲章、国際法違反

の軍事行動を国連の常任理事国である国が行なうとは思っていませんでした。それを受けて多くの国々がロシアを非難し、ウクライナへの支援を始めました。日本もNATO諸国と同様に、ロシアに対して経済制裁とウクライナに対する支援を行いました。

その後、この状況を利用して、一気に軍備拡張と軍事行動の拡大をと今の岸田政権は狙いはじめました。2022年中に改定する安全保障関連三文書にその内容を明記するようです。安保関連三文書は、国の外交・防衛政策の基本方針である「国家安全保障戦略（NSS）」と10年程度の間に保有すべき防衛力の水準を定めた「国防衛戦略（現・防衛計画の大綱）」、5年間にかかる経費の総額や装備品の数量を定めた「防衛力整備計画」（現・中期防衛力整備計画）

で構成されます。昨日12日、自公両党はこの安保関連三文書の改定内容に合意したとのこと。その内容はすでにいろいろ漏れ伝わっていますが、「敵基地攻撃能力（反撃能力）」の保有を明記しています。与党協議は10月中旬に始まり、実務者協議は週1〜2回のペースで計15回（これは非公開で議事録も非公表）。両党幹部でつくる親会議は2回開かれ、実務者協議には政府側も出席し、敵基地攻撃能力の保有をはじめとした三文書改訂の素案を提示し、両党が協議し、了承する形をとりました。10日閉会した臨時国会では野党からさまざまな角度から質問が出ましたが、政府は「検討中」と曖昧な答弁に終始し、戦後の日本の安全保障の大転換にもかかわらず国会での審議はほとんどできていません。政府は16日にも閣議決定をする予定です。

静岡市平和委員会 会長  
海野 順二

さらにその財源として防衛増税1兆円を打ち出しました。23〜27年度で総額43兆円。24年度から増税をはじめ27年度には1兆円強を想定しています。今年は増税がなくても来年から確実に軍事費に回すための増税が予想されます。年初におめでとくと喜んでばかりではいられません。先のことを考えて今年をよい年にしていきたいと思います。



最近の岸田首相の暴走ぶりには、

本心に驚いている。○専守防衛を投げ捨て、先制攻撃ができる国への大転換○軍事費2倍化の大軍拡○原発再稼働、新設へ逆走○マイナンバーカード強制で健康保険証と引き換え○憲法改悪に前のめり、等々。

## この国の行方 ~吉澤 はつ江~

都合の悪い(党)は排除するやり方に、怒りと同時にこの先に続く日本の行方が恐ろしくなった。戦前に、まず共産党を排除することから始め、大政翼賛会を作り、そして戦争を始めた、その道筋の始まりではないのか？ 私は、月に4〜5回街頭宣伝に出ている。呉服町を歩く人は、皆おしゃべり何の不満もないようだ。「憲法守ろう」「核兵器なくそう！」「原発なくそう」等の声かけに耳も貸さず、チラシも受け取らず通り過ぎていく人の何と多い事か！日本が危険な方向に急ハンドルを切るうとしてるのに、心配な声も反対の声も大きくならない。この道を突き進んだら日本はどうなるのか、焦る気持ちが募っている。



# 2022年日本平和大会 オンラインに参加して

11月26日(土曜日)、静岡市葵区鷹匠の静岡市平和委員会の事務所で「日本平和大会(オンライン)」集会が行われました。以下、三人の方の感想です。

**外交努力を軽視してはならない!**

合戸 政治

開会集会の海外からのあいさつで、ウクライナ平和主義運動のユーレイ・シェリアゼンコさんは、

「ゼレンスキーの批判(18歳から60歳までの男子の出国禁止など)をしていました。オーストラリアのアボリジニのハンナ・ミドルトンさんは、

「アメリカは凶暴な国。アメリカの執拗な工作がウクライナ戦争を引き出した」とアメリカを強烈にこきおろしました。この

ような多様さが面白かった。

閉会集会のトークセッションで、憲法学者の清末愛

砂さんが外交の役割を強調していま

した。安全保障はリアリズム。戦争は突然起きるものではない。準備期間がある。どうやってその準備期間をなくすのか考えるべきだと。そこにも外交が介入すると思いました。

国の基本的なスタンス(敵国をつくらない。他国の脅威とはならないなど)はより大事で、日米軍事同盟は、日本を守るものでなく逆に緊張関係を作るものだと言います。

悲しいことに日本には外交がない。アメリカの意見と違う外交は一つできない。外交がないから、国防は軍事的な発想しか浮かばない。

11月22日「安保三文書改定に関する政府有識者会議」が報告書をまとめました。その内容は軍事一色、外交努力に関する内容は一つありませんでした。岸田首相に報告書を手渡した佐々江賢一郎氏は、アメリカ合衆国特命全権大使などを務めた日本では最優秀の外交官なはずで、日本の外交官が外交を考えない。これが今日陥っている日本外交の悲劇です。そんなことを感じた日本平和大会でした。

## 4 ONO

富田 家一郎

各国の方が発言しましたが、ベトナム平和委員会事務局長、ドン・ファイ・クオンさんの発

## サッカーWカップに 思うこと

つむじ風

この文章が掲載される頃には決勝トーナメントは始まっているだろうか。今、世界では懲りもしない愚かな権力者によって、罪もない子どもたちや弱い立場の人達が犠牲になっている。一時でも決して忘れてはいけない事なのだが、今多くの人々はカタルに熱い視線を送っている。その中で感じたことを書いて見ました。

連日の様に熱戦が続き、素晴らしい試合が届いている。一喜一憂している人も多い事だろう。専門的な事は報道とかを見てもらうとして、私が感激するのは試合が終わった後に、選手だけでなく、サポーターも勝敗に関係なく、相手と讃えあうところだ。ついさっきまで激しく体をぶつけ合い、国の威信をかけて闘い、外交ではいがみあう国同士でも、試合が終われば、肩を抱き合い、握手を交わして笑顔で別れていく。あの姿こそ本当の意味での国際外交ではないだろうか。サポーターにしても、素晴らしい試合をした同士で讃えあう、あの姿には込み上げるものがある。夢、理想と言われるだろうが、あの姿に世界の平和の理想を感じている。

山下 亮一

言から「4つのNO」を紹介します。

### 「4つのNO」要約

- ① 軍事同盟に加わらない
- ② ある国と結んで他国と戦わない
- ③ 外国が他国と対抗するための軍事基地建設や領土の使用を認めない
- ④ 国際関係には武力の行使、威嚇を行わない

以上ですが、日本国憲法の前文、9条に通じる精神です。

## 日本の運動が世界から 注視されている

丹羽 巖

オンラインでの大会でした。戦争危機が叫ばれる中、い

かに戦争を回避し、平和を守ることが問われるかを、真剣に討議し、「軍事同盟強化でなく、非核・平和を」の決意を固めた大会であったと確信しました。

ん。日本の運動が世界から注視されていることを自覚し、これからの運動に参加していきたいと思っています。

## 平和の動き 12～1月



### 12月

29日(木) 9の日行動 12:00～ 青葉前

### 1月

9日(月) 9の日行動 12:00～ 青葉前

12日(木) 核禁条約批准署名 12:00～ 東急前

19日(木) オール静岡アクション 17:30～ 青葉前

29日(土) 9の日行動 12:00～ 青葉前

29日(土) 静岡市平和委員会総会 13:00～ シズウェル